

平成30年度 雪国よこて安全安心住宅普及促進事業 “屋根雪対策”の補助金を利用した方への アンケート調査結果

【調査の目的】

◇ この調査は、雪国よこて安全安心住宅普及促進事業における屋根の雪対策補助をご利用された皆様に工事の効果をお伺いし、今後の市の住宅補助事業の参考にすることを目的としています。

【調査対象工事の内容】

- (1) 屋根の雪を溶かすための電気、温水式循環及び散水式の融雪設備の設置又は取替え工事
- (2) 屋根を自然落雪型の勾配（4寸勾配以上）に改修する工事
- (3) 屋根を無落雪型の屋根（1寸勾配以下）に改修する工事
- (4) 屋根からの落雪を防止するために行う屋根改修工事並びに落雪防止装置の設置又は取替工事
- (5) 雪下ろしの安全確保のための固定式はしご、はしご脱落防止金具、安全帯取付設置又は取替工事

【回答結果等】

- ◇ 調査の対象者 平成25年度から平成29年度までの本補助事業（屋根雪対策）利用者
- ◇ 調査の実施期間 平成30年2月から3月まで（平成29年度末）
- ◇ 申請件数 175件 （屋根雪対策補助 利用件数）
- ◇ 回答件数 129件 （回答率 73%）

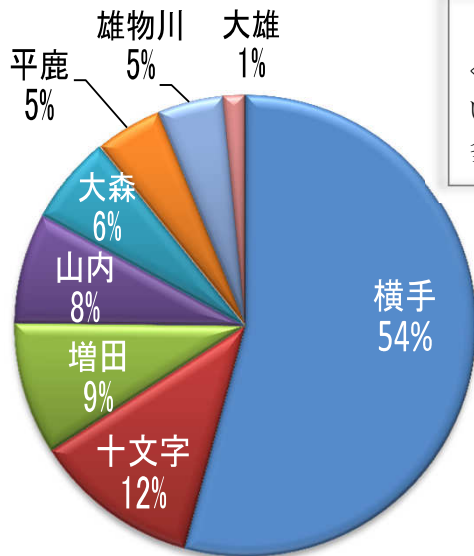


横手市 建設部
建築住宅課

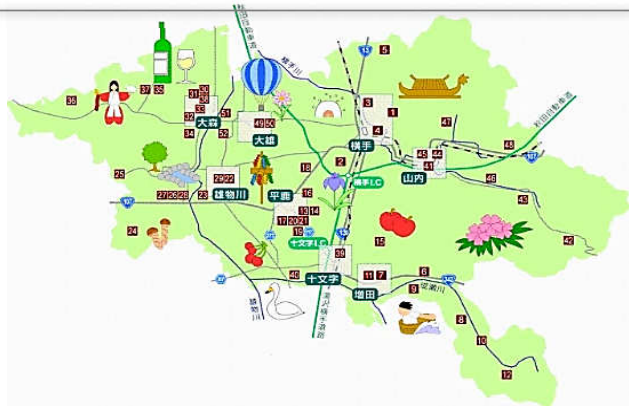
雪対策 効果検証アンケート

(回答数 129件)

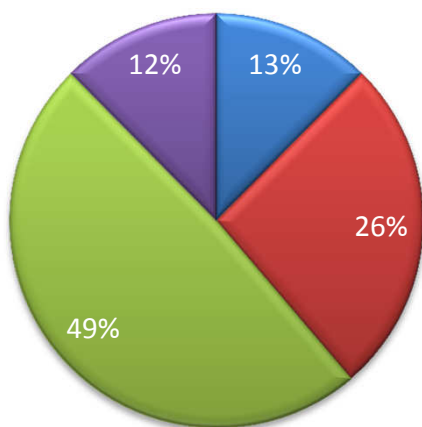
問1 あなたのお住まいの地区を教えてください。



地区別の集計では、横手、十文字地域で着工件数が多くなっている。次いで増田、山内地域で件数が多くなっている。住宅密集地や比較的降雪量が多い山間部で工事が多く実施されている。



問2 あなたの世帯の状況を教えてください。(○は1つ)

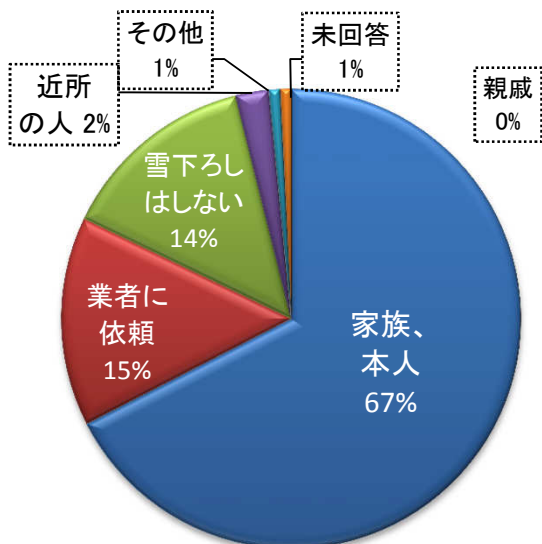


- 65歳以上の高齢者のみの世帯(単身)
- 65歳以上の高齢者のみの世帯(2人以上)
- 65歳以上の方と64歳以下の方が同居する世帯
- その他

住宅の雪対策にかかる改修工事を行った世帯に65歳以上の高齢者が居住している割合は、約9割となっている。降雪期の除排雪に対する身体的な負担などが、屋根の改修工事を行うきっかけになっていると考えられる。



問3 あなたの家では、主に誰が雪下ろしを行っていますか。(○は1つ)

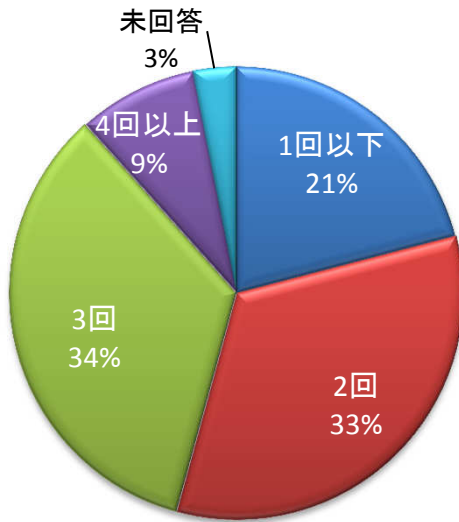


約7割の方が、家族や自ら雪下ろし作業を行っている。業者に依頼する方々の回答として、雪下ろしの依頼時期が集中し、あとまわしになったことや、下ろした雪の処理に手間と経費がかかった、との回答が複数あった。



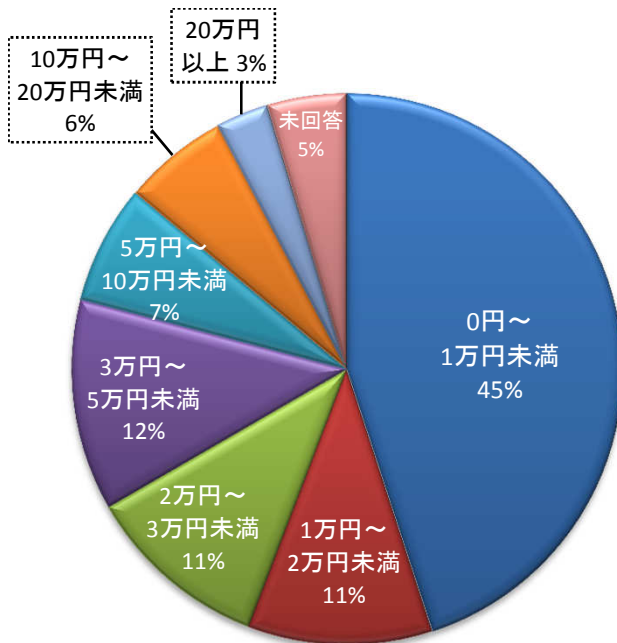
問4 以前の雪下ろしの状況を教えてください。

①工事をする前、あなたの家では、屋根の雪下ろしを一冬でおおよそ何回しましたか。(〇は1つ)



横手市の平均最大積雪量は、おおよそ120cmであり、住宅等改修前では2～4回の雪下ろしを行う方が約76%であった。住宅の広さや、加えて作業小屋等の雪下ろしも行う場合は、相当な負担であることが伺える。

②工事をする前、雪下ろしや排雪に、一冬でどのくらいの費用を支払っていましたか。(〇は1つ)



雪下ろし費用が1万円未満の比率が半数近いが、一方で住宅が隣接しているなど雪下ろしのスペース、雪捨て場が確保できない方や、加齢による身体的な負担や危険性など、排雪運搬作業も同時に依頼した場合は、高額な(10万円以上20万円を超える)費用となっている事案もある。



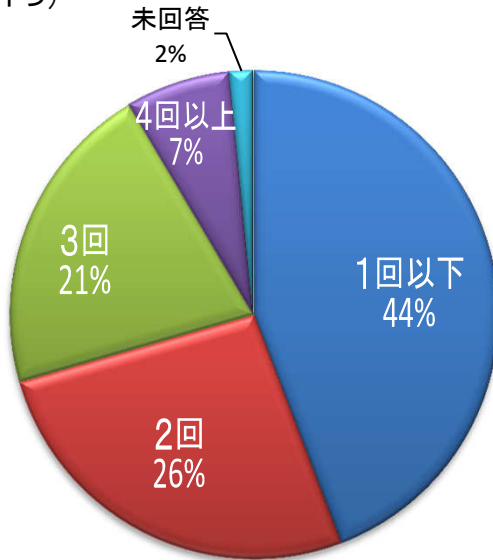
③これまで、雪下ろし等で困っていたことを教えてください。

— ご利用者様の声 —

- ・除排雪作業を業者へ依頼した場合、支払いの負担が大きかった。
- ・雪の捨て場所がない、スペースが手狭なため下ろした雪の処理に困っていた。
- ・軒先からの落雪が危険だった。
- ・屋根の勾配がきつく、雪下ろし中転倒し、落下しそうになり危険を感じた。
- ・屋根が平らではなかったため時間がかかり、また足場も悪く怖い思いをしていた。
- ・自分で雪下ろしをするので、費用はかからないが重労働で体への負担が大変きつかった。
- ・雪下ろしをしてくれる人が高齢であり、自分もできないため、毎年不安だった。
- ・業者に頼んでやってもらうが、時期が集中し、しばらく待たないといけないことがよくある。
- ・屋根から落ちた雪が、隣家の敷地に落ちていくことがあった。
- ・家屋東側にできる雪庇を下ろす時に、下にあるカーポート窓の破損が心配だった。

問5 現在の雪下ろしの状況を教えてください。

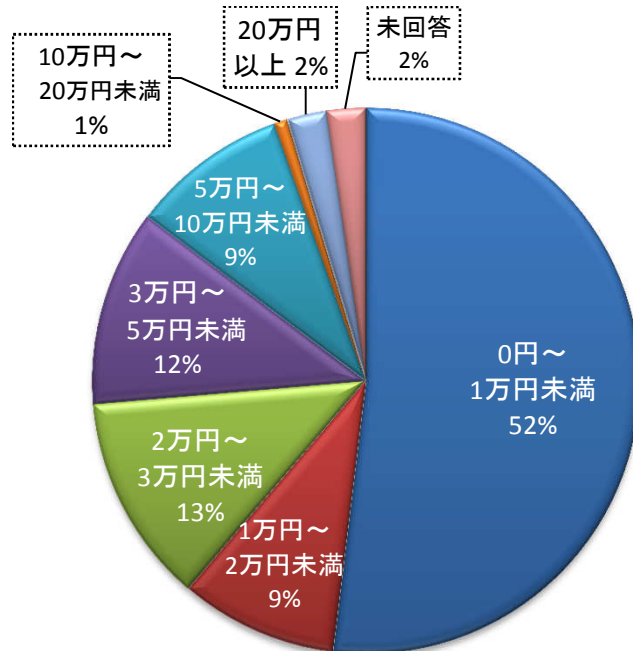
①この冬(平成29年12月～平成30年2月)、あなたの家では、屋根の雪下ろしを何回しましたか。(〇は1つ)



落雪型屋根以外の工事をした方も含まれるため、2回～4回以上雪下ろしを行った方の割合は、ほぼ半数となったが、全体的に雪下ろしの回数は減少した。

この冬は、冬型の気圧配置が強まる日が多く、平成30年1月中旬から2月上旬まで大雪となったが、1回以下で雪下ろしが済んだ方は、工事前と比較して倍増し、ほぼ半数となったことが伺える。

②この冬(平成29年12月～平成30年2月)の雪下ろしや排雪に、どのくらいの費用を支払いましたか。(〇は1つ)

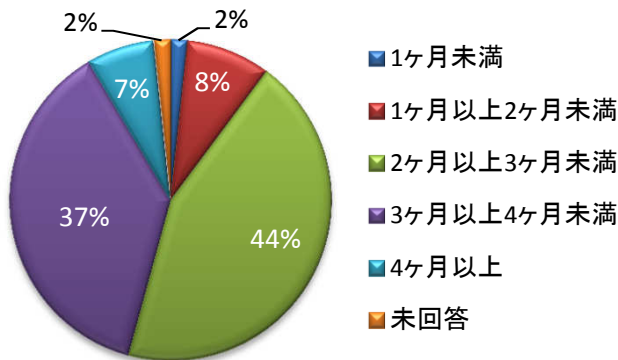


雪下ろし費用が1万円未満の比率が半数を超えた。また、費用3万円未満の割合を含めると7割以上であり、事業の効果が伺える。



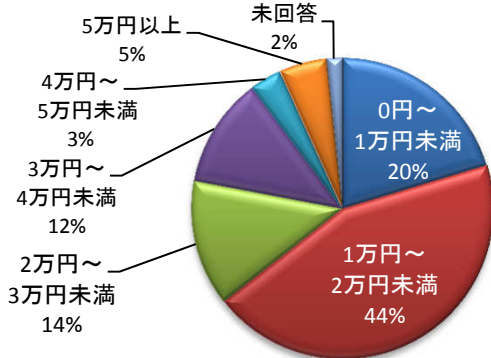
問6-1 屋根に融雪(消雪)装置を設置する工事を行った方にお伺いします。

①融雪(消雪)装置を実際に動かした期間は、どれくらいですか。



屋根融雪設備を設置した方の稼働期間は、2か月以上3か月未満が最も多い。次いで3か月以上4か月未満となっている。例年1月から2月までの降雪量が多いため、稼働期間は2か月以上3か月未満が半数近い割合となっていることが伺える。

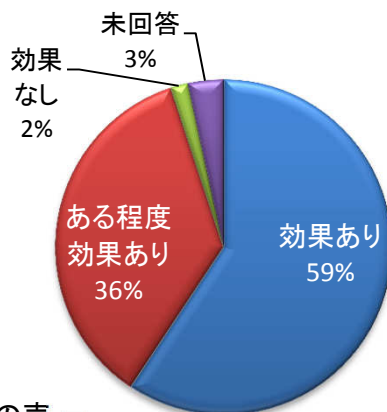
②融雪(消雪)装置の電気代等の経費は、平均すると1ヶ月でいくらですか。(〇は1つ)



屋根の融雪装置の電気料金は、1万円未満と1万円以上2万円未満の割合が64%になっている。一方で、3万円以上となった事案は20%になっていることから、管理費を含めたトータルコストの課題も伺えるが、危険性や体力的な負担は軽減される。

全体的に装置の光熱水費が3万円未満の割合は75%を超えている。

③その工事を実施した結果、負担軽減や事故防止の効果はありましたか。(〇は1つ) また、その理由を教えてください。



今回の融雪等工事の効果(事故防止、身体的な負担軽減)を実感している方は約6割、ある程度の効果を感じている方を含めると実に9割以上の方が、設置等工事の結果に満足していることが伺える。

— ご利用者様の声 —

効果あり、ある程度効果あり。

- ・雪下ろしをしなくてよいので、精神的に楽になりました。
- ・軒先融雪を施工したが、前年より雪の量が約半分になり、雪下ろし、雪の片づけが楽になった。
- ・電気代は増えたが、屋根の修理代がなくなったほか、融雪装置の設置個所への積雪がなくなった。さらに装置を設置していない部分もスムーズに落ちるようになった。
- ・マブが落ちないので安心していただける。
- ・軒先のつららが減り下屋が傷まない。電気代が高いため、あまり使えないこともある、また、北側は効果が少ないものの、軒先を少し下からつつくだけで雪下ろしの回数が減った。
- ・落雪が隣家に雪崩れ込むこともなく、毎日雪山に上らなくてよくなったため、事故の不安もなく体力的にも楽になりました。

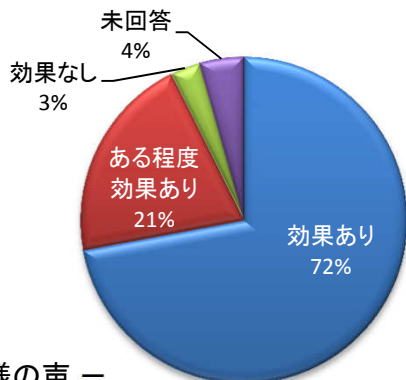
効果があつたとはいえない(その他)。

- ・経費が掛かりすぎる。
- ・工事が中途半端で十分に効果が得られない。
- ・今冬(調査時点)のような大雪の場合、雪庇ができてしまい大きな効果があつたとは言われたい。

・融雪パネル部分だけは雪が少なくなるが、他は変わらない。屋根全面にパネルを設置するには費用が高すぎる。融雪パネルは太陽光で劣化するそうで、シーズンオフには取り外して、屋内保管とのことだったが、その作業が大変だ。毎年業者に設置と取り外しを依頼すると、雪下ろしを業者に依頼するより高くなりそう。以上の理由で劣化覚悟で屋根に放置する。期待したほどの効果はなく、ほとんどあきらめて、劣化しても取り替える予定はない。

問6-2 屋根勾配の形状変更の工事や雪下ろしの事故防止対策を行った方にお伺いします。

①その工事を実施した結果、負担軽減や事故防止の効果はありましたか。(○は1つ)
また、その理由を教えてください。



今回の屋根勾配や形状を変更した工事の効果を実感している方は約7割、ある程度効果を感じている方を含めると実に9割以上の方が、融雪等工事と同様、改修工事の結果に満足している。

— ご利用者様の声 —

効果あり、ある程度効果あり。

- ・屋根に命綱をつなぐ金具を取り付けたので雪下ろしの時に命綱で体をつなぐことができるので、とても安心です。
- ・屋根を平らにしたことで、作業が安全で事故防止の効果につながった。
- ・屋根が水平に近い勾配にしたため、屋根上での作業が楽になった。
- ・屋根に上ったり、後片付けもやらずに済み雪下ろし作業から解放された。
- ・屋根を平らにし、屋根の端がわかるようになった。また、足場がしっかりして時間短縮となった。
- ・スノーダンプで一定の場所に下ろせる。雪の移動が自由にどちらへもできる。雪下ろしの場所を選ばなくてもよい。
- ・雪による窓や外壁の傷みを軽減できた。
- ・屋根に上らない分危険から解放され、自然に落ちるので安心。

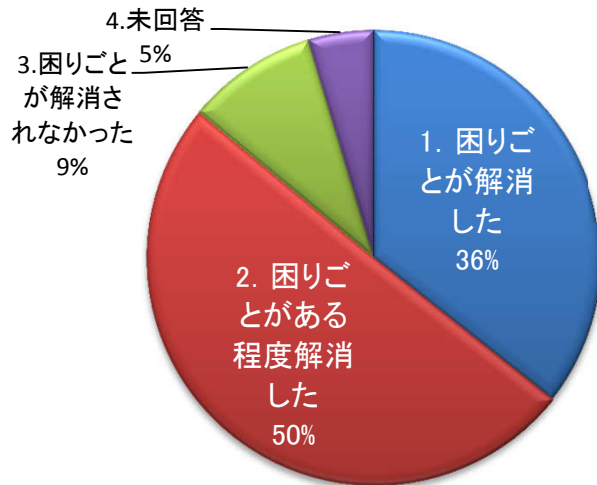


効果があつたとはいえない(その他)。

- ・家の中の熱で屋根の雪が溶けると思って工事をやったが熱線工事をしなかったため、結局雪下ろしをした。
- ・タスカルバーを付けましたが、バーの上の雪を除雪するまでロープをつなぐことができないので心配でした。
- ・雪の滑る音が大きい。
- ・予想外に雪が多い。

問7 全員にお聞きします。

①今回の雪対策の工事によって、これまで雪下ろしで困っていたことは解決されましたか。
(○は1つ) また、その理由を教えてください。



雪国よこて安全安心事業の「雪対策工事」を実施した方の、8割以上の方が困りごと(雪下ろし負担軽減、作業の安全面や不安)が解決されたとしており、本事業の効果が大きいことが伺える。



— ご利用者様の声 —

困りごとが解消した、ある程度解消した。

- ・屋根に上がる必要がなくなった。雪下ろしをしなくてもよくなったため、負担が軽減された。
 - ・平らにしたため安全面は大変良くなった。
 - ・隣家の敷地に下ろすことなく、雪下ろしができ精神面で非常に楽。雪下ろしのストレスがなくなった。
 - ・隣に迷惑をかけなくなった。隣家に気を使わなくてよかった。
 - ・屋根に上らないので助かりました。危険から解消されました。ただ、雪が軒に積もりやすいので、軒払いが大変です。
 - ・命綱で安全面の効果がある。“タスカルバー”を作った業者は定期的に点検してほしいです。
- 雪下ろしをした後の雪の撤去に経費がかからなくなった。
- ・マブがかからなくなった。屋根より、一度に多くの雪が落ちてこなくなった。

解消されなかった(その他)。

- ・電気料の負担が大きい。雪の降らない時など電気のスイッチを切ることになっている。
- ・二人暮らしで高齢のため、作業は大変です。
- ・雪下ろしが出来ても捨てる所がなく困っている。結局、捨てる場所を作ればお金がかかる。
- ・予期せぬ時に落雪がある。屋根の雪が多いと通行人に当たらないが心配である。

問8 住宅の雪対策について、今後どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。(自由記載)

— ご利用者様の声 —

- ・空き家や高齢者宅の雪庇など小学生や中学生が危険に合わない対策をしてほしい。
- ・除雪機械の購入や燃料費の補助などがあればいいと思います。
- ・雪下ろしをしたことがない人たちへの講習会をもっと実施してほしい。
- ・融雪装置の毎月の電気代や工事費用の補助をもっと増やしてほしい。
- ・制度の拡充(補助率アップ)や新たな屋根融雪対策の研究を進めていただきたい。
- ・その家にあった雪対策の相談に専門の方があたってもらいたい。この事業を知らない人も多いので、広報活動も必要だと思う。

- ・流雪溝を早く使用できるようにしてほしい。
- ・流雪溝が1日中、使用できるようにしていただきたい。
- ・一人暮らし高齢者世帯について、雪下ろしの費用の一部補助等を考慮してもらえたらと思う。
- ・雪下ろしの必要のない建物構造の強化を検討してほしい。
- ・高齢化が進み共助組織の確立が大事だと思うので、もっと地域のリーダーを育成し、高齢者が快適にすごせる地域を進めてほしい。
- ・雪下ろし費用(業者依頼分)を減税対象にするよう検討してほしい。



おわりに

今回の調査では、平成25年度から平成29年度までに、雪国よこて安全安心住宅普及促進事業における「屋根の雪対策補助」をご利用された175名の皆様にアンケート調査を実施し、129名の皆様からご回答(回答率73%)をいただき、その内容を分析したものです。

横手市は、全国及び県内においても人口の減少や少子高齢化の進展が著しく、世帯構成や生活様式の変化などに応じた住宅の供給や改善の推進、空き家の利活用や撤去、周囲の道路や公園等の整備による住生活環境の向上などの課題が山積しています。

また、豪雪地域という地域特性に対応しながら、少子高齢化の進行やライフスタイルの多様化に伴った、高齢者をはじめとする様々な人が安心して住み続けられる住宅及び住環境の整備やバリアフリー化を促進していく必要があります。特に、雪国の快適な暮らしの実現に向けて、雪にも強い安全かつ安心な住環境の整備・改善に、より多くの皆様のご意見等を参考にし今後も努めて参ります。

ご協力をいただきました皆様におかれましては、貴重なご意見、ご感想等をいただきまして、誠にありがとうございました。

横手市 建設部
建築住宅課